学校法人 名古屋国際学園
Nagoya International School

学校の未来に向けての変革

“この世で唯一不変なことは変化である” ヘラクレイトス（ギリシャの哲学者）

日本の学校では、文部科学省のカリキュラムに従い、日本全国、教育内容はほぼ統一されていますが、アメリカの学校と同様、インターナショナルスクールでは、生徒がどんなスキルや特性を身につけるのかといった事柄を学校が決定します。

学校ごとに異なるカリキュラムを実施し、異なる目標を掲げ、教科書を自由に選び、目指す生徒像も違います。それぞれの学校の理念を支持するか否かは保護者に委ねられ、時代が変わるにつれ、如何にしてその理念が育まれ、発展していくのかを決めるのも学校コミュニティに委ねられています。特に教育において、違いを受け入れ、独自の方針や目標を持ち、しかも保護者がその過程に直接参加出来るというのは、日本人にはあまりなじみのない体験かもしれません。

● 長期運営計画

1964年の創立以来、中部地方の国際化と、保護者やコミュニティ内の有志の皆さんによる長年の努力が実を結んだ結果、今日の名古屋国際学園（NIS）は生涯にわたり学習することを追求し、世界に足跡を刻むことを目指す若者を育む、たくましく、結束の強いコミュニティに生まれ変わりました。

私達が理想とする教育が成果をあげるためには、個人の努力やしっかりとしたガイダンスが必要なのは言うまでもありませんが、同時に、学校として目指すもの、将来のビジョン、信念をしっかりと持ち、その実現に向けての道筋を整えることも非常に重要です。

しかし 1980 年代までの NIS は、学校として目指す将来のビジョンがはっきりしていませんでした。NIS で初めて長期運営計画が立てられたのは1995年のことです。この運営計画が無ければ、学校コミュニティも、私達が共有する価値観も、今とは全く異なったものになっていたことでしょう。最初の運営計画では、学校の理念と目標、それらの実現に向けての方策が定められ、運営面、教育面、人事面、経営面、施設面における新しい方針と詳細な計画が出来上がりました。この運営計画の実現により、学校は大きく変わりました。最も顕著で目に見える変化として挙げられるのは、校舎や運動場などの施設改修ですが、同様に、外国人生徒の増加に伴う生徒層の多国籍化、IB プログラムの導入なども学校に大きな変化をもたらしました。

● 新しい時代に向けて

しかしそれから15年が過ぎ、時代は変わりました。学校も大きく変わり、また、当初の運営計画で掲げた目標の多くを達成することも出来ました。NIS には将来に向けての新しいロードマップが必要になったのです。

そこで、2010年3月、新たな運営計画策定のためのプロセスが開始しました。まず、より多くの人々の意見を取り入れるべく、学校コミュニティ全体に対してアンケートを実施し、各々が理想とする生徒像や、学校に期待することなどを尋ねました。その結果を踏まえつつ、今度は保護者や教師の有志、理事、学校管理職が集まり、今後、学校が進むべき方向性について意見を出し合いました。